

領域Ⅰ 持続可能な活力あるまちづくり

1 産業と人々の活力がみなぎるまち

	【現行】10年後に実現するまちの姿	変更すべき点・新たに加えるべき点	グループ討議の概要
1	○中野駅周辺は、にぎわいの中心として、業務・商業施設、住宅、教育機関などさまざまな施設が複合的に誘導され、広域避難場所としての機能とみどり豊かな空間を備えたまちとなっています。さらに、東京の新たな顔となるべく、サンプラザや区役所、中野駅北口広場一帯の再整備や中野駅南口のまちづくりが動き始めています。	★中野駅周辺の南北含めたまちの拠点としての整備の方向を踏まえ、内容を明確にする。 ★中野駅周辺のにぎわいを他の地域に波及していく視点を追加する。	○中野駅のにぎわいは南北の連携・交流が図られる工夫が必要ではないか。 ○中野駅のにぎわいを他の地域に線をつないでいくような波及効果が図れると良い。
2	○地域の中心となる拠点では、その地区ごとの環境にあったまちづくりが、地域の人々とともに検討され、着実に進められています。	★地域特性を活かしたまちづくりは、重要な視点であり、より一層の推進が必要。	○地域特性を活かしたまちづくりは必要である。
3	○踏み切り問題の早期解決に向けて、西武新宿線と道路の立体交差化にあわせて、駅前広場や道路の整備など、まちの活力と住環境、安全性を高める沿線のまちづくりが進められています。	★西武新宿線沿線の鉄道地下化にともなうまちのにぎわい創出についてより明確にする。	○駅周辺のまちの基盤整備に関連して、地域の商店等が衰退していくようではない。安全性の確保とまちの活力等をきちんと考えていく必要がある。
4	○便利で快適に移動できる交通環境が整備されており、人々が区内を移動しやすくなっています。	★交通環境の工夫は引き続き必要である。	○中央線等により、東西交通の便は良いが、南北交通については工夫が必要ではないか。
5	○区内各所では、さまざまな施策の組み合わせによって、土地の適切な活用が進んでいます。	★適切な土地活用は重要な視点であり、より一層の推進が必要。	○建物の建替えが課題。既存不適格の建物が多く、更新できず、老朽が進んでいく状況がある。まちの発展・安全を考慮し、土地の適切な活用について工夫したり、関係機関へ働きかけることも必要ではないか。
6	○情報関連ビジネス、人材サービスなど、多様な都市生活のニーズに対応した産業が発展しており、区外から起業をめざす人が多く集まるなど、地域全体の経済力が高まっています。	★行政や関係機関の支援と効果的な連携による、ソーシャルビジネス、ICT・コンテンツ産業の育成、事業集積について明確にする。	○ブロードウェイで、障害者の芸術活動を支援しているが、そういう活動を、統廃合したような小・中学校を活用した複合施設などで行えるようにしたらどうか。健常者も障害者も楽しく生きていくためのソーシャルビジネスということも大切である。 ○23区の中で、事業所数が下位だが、ソーシャルなビジネスの支援等、何らかの対策により、事業所数の増加を図りたい。 ○ICT・コンテンツ産業の集積も推進すべきである。 その際に、行政や商工会議所の支援と効果的な連携が求められる。 ○産・学・金融の連携が大事。創業するのはお金もかかるし、ノウハウも重要。
7	○商店街は、人とのつながりの中で楽しく買物ができる地域コミュニティの核として、消費者が新しい発見やおもしろさなどを体感できる場へと発展しています。	★商店街が、個性を発揮し、ビジネスに直結する有効なイベントや様々な交流を通して活性化している姿を明確にする。	○様々なイベントが、ビジネスと結びついていない。その辺を踏まえ、ソーシャルビジネスの創設、商店街の活性化を考えたかどうか。 ○地域商店の良さ・個性を発揮できる仕組みが必要ではないか。 ○商店、商店街を対象に、地区計画制度を活用して、より良い街並みの形成、地域の核としての整備を図ることが大切ではないか。 ○業者間の複合的なコミュニティ（商店街間、同業種間、取引先間等）づくり、ビジネスにつながる交流を築くことが大切ではないか。 ○若手のリーダーの育成が必要ではないか。

領域Ⅰ 持続可能な活力あるまちづくり

1 産業と人々の活力がみなぎるまち

	【現行】10年後に実現するまちの姿	変更すべき点・新たに加えるべき点	グループ討議の概要
8	○さまざまな世代が集まり、活発に活動して、暮らしや文化をにぎわいのあるものになっています。	<p>★区内だけでなく、国内、海外からの集客、都市観光の視点について新たに項目を加える。</p> <p>★中野ならではの魅力・文化・にぎわいのシンボル形成について新たに項目を加える。たとえば、漫画・アニメ・ゲームなどの「サブカルチャーのメッカ」として国際的に売り出すことも重要だ。</p>	<p>○区内だけでなく、区外、海外からの集客にも目を向けるべきではないか。</p> <p>○「グローバルなおもてなし」ということがキーワードになる。東京オリンピック・パラリンピックを踏まえ、観光都市として、英語、韓国語、中国語などで、まちの案内ができるようになるとよい。</p> <p>○人を引き付けるためには、皆が共通して応援できる中野のシンボル・象徴が必要である。アニメ・おたく文化、祭り等もその一つといえる。</p>
9	○三世代向け、高齢者・障害者向けなど、多様で良質な住宅が、区内各所に増えています。	<p>★子育て世代の定着を図る良好な住宅の確保について明確にする。</p> <p>★多世代が安心して暮らすのことができる、多様で質の高い住宅の確保について引き続き推進する。</p> <p>★職住が接近した利便性を活かしたまちについて内容を追加する。</p>	<p>○子育て世代の定着には良好な住まいが必要である。</p> <p>○学校跡地などを活用して、高齢者住宅、ファミリー層住宅、介護施設、医療機関、保育園等、多世代のサービスと居住が複合した、質の高い住宅の創出し、定住化を図ってはどうか。</p> <p>○職住接近のまちづくりを進める必要があるのではないか。</p>

2 環境に配慮する区民生活が根づくまち

	【現行】10年後に実現するまちの姿	変更すべき点・新たに加えるべき点	グループ討議の概要
10	○区民の日常生活の中で、温室効果ガスの排出量削減をめざしたエネルギー消費の抑制や、環境保全のための消費行動など、地球環境に配慮した取り組みが進んでいます。	<p>★再生可能エネルギーの利用等、環境に配慮した取り組みは必要であり、継続して推進する。</p>	<p>○環境保全を考えるような技術革新型のビジネスの誘致をしたらどうか。</p> <p>○環境へ配慮した取り組みは必要である。</p>
11	○多様な自然エネルギーの利用が進んでいます。		<p>○再生可能エネルギーの利用を、リサイクルと一緒に普及できないか。</p>
12	○区民や事業者、区が連携し、ごみの発生抑制の具体的な取り組みが広がっています。	<p>★ごみの発生抑制、資源化の取り組みは必要であり、継続して推進する。</p>	<p>○ごみの発生抑制については、区民の努力だけでなく、事業者の責任の明確化が必要ではないか。</p>
13	○区民や事業者、区がそれぞれの役割を果たすことによって、資源の再利用の取り組みが進んでいます。		<p>○資源化の取り組みは進めていく必要がある。</p>
14	○庭木の育成やベランダ・屋上緑化など、身近なところでみどりを増やす取り組みが進んでおり、まちのみどりが、人々の心にやすらぎを与えています。	<p>★様々な工夫により「まちのみどり」を確保することが必要であり、継続して推進する。</p>	<p>○開発による街並みの高層化により緑化スペースの確保を推進できるのではないか。</p>

領域Ⅰ 持続可能な活力あるまちづくり

3 安全で快適な都市基盤を着実に築くまち

	【現行】10年後に実現するまちの姿	変更すべき点・新たに加えるべき点	グループ討議の概要
15	○地区の特徴を生かしつつ、道路整備や建物の共同化、不燃化などが着実に進められています。	★火災危険度が高い地域の防災まちづくりに関する視点を明確にする。	○道路幅員が狭く、火災危険度が高いという状況の解消、まちの不燃化ということも、まちづくりのビジョンの一つだと思う。
16	○区内各所で建築物の耐震性の向上や防災体制の整備、備蓄物資の確保などが進み、まちの防災機能が高まっています。	★災害に強い、安全・安心まちづくりは重要であり、引き続き推進する。	○災害に強い、安全・安心なまちづくりが大事である。
17	○狭あい道路が減少し、道路の安全性と快適性が高まっているとともに、消防活動の困難な区域が少なくなっています。	★狭あい道路の拡幅、子どもや高齢者等すべての人が安心して過ごせる車歩道の分離等、道路の安全性・快適性の確保は重要であり、引き続き推進する。	○子供が安心して遊べるような車歩道分離の道路計画の早期実現を図るべきだ。また、特に通学路の安全確保は重要である。 ○狭あい道路の拡幅については、関係者の意識を高める実効的な手段を工夫するべきではないか。 ○電柱の地中化も有効ではないか。
18	○みどりの拠点となる公園の計画的な整備や、今ある緑地の保全など、自然と調和し環境への負荷を低減する都市基盤の整備が進んでいます。	★公園整備にかかる防災上の必要性について視点を加える。	○防災面を考えると、一定の広さの公園の整備が必要である。
19	○区内各所では、だれもが気持ちよく利用できる駅や道路、建物などの都市環境づくりが進んでいます。	★誰もが快適に過ごせる都市環境の整備は必要であり、引き続き推進する。	○単体だけでバリアフリーの基準を満たすということだけでなく、面的な動線なども考慮し、障害のある人もない人も快適に過ごせるまちづくりの視点が必要ではないか。

領域Ⅱ 自立してともに成長する人づくり

1 子育て支援活動など、地域活動が広がるまち

	【現行】10年後に実現するまちの姿	変更すべき点・新たに加えるべき点	グループ討議の概要
20	○地域では、幅広い育成活動が実践され、家庭や学校などと連携して子育てにかかわっている人が増えています。	○連携を必要とする側と、何らかの協力を提供できる側の相互が認識したり、理解しやすいような情報発信の工夫や、コーディネートが重要である。一層の推進が必要。 △子育て支援への地域ぐるみでのネットワークづくりは重要である。	◆ふれ合い運動、お手伝いレンジャーについて経緯など紹介、あいさつ運動などは20番に繋がっていくのではないかと。 ◆地域が大事。(声掛け、赤ちゃんとのふれあい体験、チャイルドデイでの小学生との交流などを通じて)地域とのつながりがあることが、公立校の良さになっている。公立校の良さを大事にしたい。 ◆他区で、高校生が主体で企画している所がある。居場所にもなるし、自分たちが主体的に係わることで、地域に愛着が湧く。「子ども主体型のまちづくり」 ◆地域で子どもを育てていきたい。地域の皆で声を掛け合えるまちになるといいと思う。声かけることで、顔を覚え、見守りにも繋がっていく。 ◆他区の例では、来街者に対しても、皆が声掛け、挨拶をしている。皆が挨拶をしたら変わっていく。 ◆外国人の挨拶、会話は参考になる。顔見知りになると、安心でき、挨拶もしやすくなる。 ◆ボランティアのことや活動のことなど、学生には届いていない。 【追加】 △子ども・子育て支援ネットワークづくりは、大人同士が顔の見える関係になるところから始まる。TOKYO PKAYDAYのような、街全体で子どもと楽しめるイベントの仕掛け。地区の児童館、保育所、小学校、中学校、子ども・子育て支援活動団体などが連携して、地区ごとの子ども祭りを開催、運営に中高生や大学生も加わってもらう。→地域ぐるみで0歳から18歳までの子どもを支えて行こうというネットワークづくりにつながる仕掛けの実践。
21	○子どもが、地域の中で遊びや学習、世代間交流などを通じてさまざまな体験をする場が用意されています。	○少子化などで、家庭でできる経験が変わってきている。多様な経験をすることは重要である。一層の推進が必要。 △地域子育て支援拠点となる場所に、あらゆる世代が関わって運営していく。	◆小学校の音読ボランティアをしている。中休み時間に、詩の音読や百人一首の暗唱発表をしている。地域の人との交流につながっている。 ◆家庭で関わりが持てる家と、共働きの家庭のように十分に時間が取れない家とがある。環境により、学習面などで差は出ないのだろうか。
22	○保護や特別な支援が必要な子どものために、状況に応じた適切な支援が提供されています。	○ひとり一人の課題にそった支援は引き続き必要である。	◆不登校・いじめへの対応の一つとして、教育相談室、スクールカウンセラーに直接電話で、保護者などが相談できるといいのではないかと。 ◆学校によっては、こころの相談室があるところもある。 ◆10か年等の実施状況を見ると、通級指導学級については、小学校はある程度進んでいるが、もう1校予定の中学校の方は未着である。 ◆障害者としても、自分は必要とされていること、認められていることを実感できることが必要。担任だけでなく、周囲が支えることも大事なこと。 【追加】 △フリースクールのような既存の学校とは、違うタイプの「学びと人とのふれあいの場」を併せ持つ「場」を整備すべきである。そこでは、多面的な指導を行うようにする。 △図書館等様々な所にも相談窓口を置き込み、学校では話しづらい悩みについても相談しやすい環境を作る。すべての相談窓口は、連携を取り、ひとり一人の困りごと、課題の解決のためにひとり一人に合った対応、プログラムの組み立てができるようにする。

領域Ⅱ 自立してともに成長する人づくり

1 子育て支援活動など、地域活動が広がるまち

	【現行】10年後に実現するまちの姿	変更すべき点・新たに加えるべき点	グループ討議の概要
23	○子育て・子育てのための相談機能や子育て支援のサービスが拡充されるとともに、より身近なところでサービスが提供され、安心して子育てができています。	○安心して子育てができるための相談体制等の充実は引き続き必要である。	<ul style="list-style-type: none"> ◆若い母親が相談する窓口は、すこやか福祉センターとなるが、地域が離れている場合もある。4カ所では少ないし相談窓口がもっと身近にある方が良い。 ◆5中エリアでは、U18で相談等している。 ◆コーディネーターが必要となる。 ◆次世代育成委員が担っている。 ◆より身近なところ、場所のみでなく24時間いつでも相談できることも安心につながる。 <p>【追加】</p> <p>△利用者が自分に合った所で相談できるように、子ども家庭支援センター、認定こども園、保育園、幼稚園、保健所などに、相談窓口を設け、対応するようにする。相談機関の連絡会、職員の研修は定期的実施する必要がある。</p>
24	○地域で、子育て講座や親になるための準備教育が進められ、親が自信や喜びを持って子育てに取り組んでいます。	○一貫したケア・支援体制により産前から支え続けるという視点で、一層の推進が必要。 △将来の自分を考える時期に、親になることを意識づけるような教育機会も大事な視点である。	<ul style="list-style-type: none"> ◆赤ちゃん全戸訪問など、家庭への援助、包括的なケア、支援が必要。 ◆町会の中で、ママサロンがあり、母親同士の仲間づくりで、孤立しないように支援している。0歳児対象だが、だんだん仲間などもでき、児童館などに移行していく。 ◆地域で妊婦を迎えるようなボランティアなども有効ではないか。 ◆産前の教育が大事。富山県の例を紹介。中学校と保育園が避難訓練等を共同で行うなど、地域での協働が進んでいる。 <p>【追加】</p> <p>△妊娠期からの切れ目のない支援というところでは、母子手帳を渡すところからスタートとなる。母子保健をはじめとする、区内の子ども・子育て支援メニューの紹介から使い方など、まさに利用者支援が重要。ネウボラを参考に区内の体制を組み立てる、区内の産婦人科、小児科との連携も必要。当事者同士の支え合いも有効。親教育と考える前に、学校教育の場の中で、赤ちゃんとの触れ合いの時間を作るなど、長いスパンで考え、将来の自分を考える時期に親になることを意識づける教育機会を用意しておくことも大事。</p>
25	○保育園や幼稚園など、乳幼児のための施設は、相互の連携が図られ、どの子どもにも同じように質の高いサービスが多様に提供されています。	△質の高い保育サービスを受けられるようにするためには、ハード、ソフト両面での一層の充実が必要である。インフォーマルな相談を受ける人材を増やし、専門機関へつなげる仕組みを作る。	<ul style="list-style-type: none"> ◆まだまだ必要 <p>【追加】</p> <p>△乳幼児の大半が質の高い保育サービスを受けられるように、ハード、ソフト面の整備が必要。→保育の充実のみではなく、商店街など街中のあらゆるところに子育てひろばやサロンを置き込む。ファミサポも有効。子どもの相談窓口と同様に、連携を取る。つまりは、インフォーマルな相談を受ける人材を増やし、専門機関へつなげる仕組みを作る。中野区にも、ぜひ病児保育を！</p>

領域Ⅱ 自立してともに成長する人づくり

1 子育て支援活動など、地域活動が広がるまち

	【現行】10年後に実現するまちの姿	変更すべき点・新たに加えるべき点	グループ討議の概要
26	○保育を必要とする子どものために、柔軟に利用できる良質なサービスが整えられています。	△企業等も含めた社会全体で子育て支援を行うしくみ作りが必要。商店街の中や、住宅政策の中でも検討をする。	◆柔軟に利用できる良質なサービスは、今後、子ども子育て支援事業の中で、小規模保育などが検討されている。 【追加】 △子どもの最善の利益を探究したサービスを提供するために、企業等も含めた社会全体で子育て支援を行うしくみ作りが必要である。 △一時預かりやファミサポ、地域子育て支援拠点など、子育て家庭ひとつひとつに支え合えるネットワークを築ききっかけとなるような場づくりも重要。商店街の中や、住宅政策の中でも検討を。病児保育やショートステイ、トワイライトステイの利用の仕方の改善と工夫を行う。
新規項目			

2 子どもから大人まで、地域の中で自分の力をのばせるまち

	【現行】10年後に実現するまちの姿	変更すべき点・新たに加えるべき点	グループ討議の概要
27	○だれもが差別されることなく、社会参加の機会が平等に保障される取り組みが進んでいます。	○引き続き必要	◆人権関係 項目自体は必要なことである。 (個別にしている表現は未整理。) ～No28、No29、No30 【追加】 △障がい者の雇用について、具体的に企業に対し目標数値をあげてもらう。 △子どもも区民である。子どものときから社会参加の機会を。
28	○女性の社会参画が進み、男女が等しく力をあわせ家庭生活における責任を担う努力を重ねています。	△女性の社会参画については、家庭内のみならず、企業等との協同も必要である。	【追加】 △男女が共に幸せな家庭生活が送れるように、それぞれのライフサイクルを見直し「ワーク・ライフ・バランス」の充実を企業とも進める。
29	○障害者は、社会生活におけるあらゆる権利行使の機会を奪われることなく、地域社会の中で自己実現できるようになっています。	○より能動的な表現を (権利行使の機会を奪われることなく→自ら意見を出し、行動できるように)	【追加】 △障がい者自身が社会参加について自ら意見を出し、行動できるように支援態勢を整える。

領域Ⅱ 自立してともに成長する人づくり

2 子どもから大人まで、地域の中で自分の力をのばせるまち

	【現行】10年後に実現するまちの姿	変更すべき点・新たに加えるべき点	グループ討議の概要
30	○外国人は、地域社会を構成する一員として、地域の中でいきいきと暮らしています。	○引き続き必要	【追加】 △誰もが地域で心豊かに暮らせるよう「心のバリアフリー」を心掛け、交流を重ねていく。 △国籍、性別、年齢に関わらず、同じ町に住む仲間であるという意識づくりは、交流の積み重ねから。乳幼児からの取り組みも重要である。
31	○学校では、自分をかけがえのない存在であると認識するとともに、生命や人権を尊重する教育が行われています。	○引き続き必要	◆公立の小中学校は教師が一所懸命勉強を教えてくれた。地域で子どもを支えることが大切。教師の教育への情熱と地域の支えが重要である。 ◆自分の経験からは、場合によっては、担任、教師以外の第三者の介入も有効であった。 ◆自分をかけがえのない存在であると認識は、自己肯定感を持つ経験による。対してダメを言うのは親。親になる前での親支援も必要ではないか。これはNo24にもつながる。 【追加】 △「子どもの権利条約」の啓発に努め、人権教育の基盤にする。
32	○特別な支援を必要とする子どもたちも、地域の子どもたちと交流しながら、自分の可能性をのばすことができる教育環境で、一人ひとりに応じた、きめ細かい教育を受けています。	○引き続き必要	◆このまま必要 【追加】 △誰もが住み慣れた地域で教育を等しく受けられるように、同じ学校内で交流ができる環境の整備を行う。
33	○学校では、子どもにとって適正な集団規模による教育が確保され、魅力ある授業が展開されて、子どもの基礎学力が向上しています。	○学校教育では、基礎学力の向上は大事だが、学力以外にも人格形成等に特色ある教育、学校が望まれる。	◆身近なところ関連で、学校の統廃合により、より遠くに通わなければならないとなっている。 ◆少子高齢化の中では、学校の統廃合はあり得る。デメリットばかりではなく、メリットを考えた方がよい。例えば、選択制など。 ◆選択制にもデメリットはある。年度によって入学者の波があり、PTAの活動計画にも影響がある。 ◆少人数にはきめ細やかさがある。一方で競争がないなどのデメリットもある。 ◆特色のある学校をそれぞれ考える。 ◆中野区の学校教育に望むものは、人格形成、人格教育 ◆基礎学力も大事 【追加】 △中野区の子どもには、どのように育ててほしいのかというイメージの共有と、それをアウトカム指標とする施策の組み立てと推進。基礎学力、人格形成、人格教育という言葉の具体的な中身の提示、子どもの発達に叶ったプログラムの構築。言葉だけでなく、中身の精査が必要。それに基づき、中野区の子どもの育ちを支えるための施策を組み立てて行くことが必要。
34	○地域と学校の協力によって、成長期の心の問題への対応や健全な生活環境づくり、多様で特色ある課外活動などが活発に行われています。	○地域と学校の協力によって、多様な経験を積めることは大切であり、引き続き必要である。	◆大学生などの活動が活かせないだろうか。 ◆中野区の特色は、出生率の低さ、外国人・学生の多さ。その特性を活かすように外国人や学生を呼び込む。スポーツなどで。 ◆ボランティアなどに入ってこれる仕組み作りが必要。人材育成を考える。講座などを実施する。 ◆町会と大学生が交流を持つ機会を多くしている。 【追加】 △中学生との交流を大事にし、その子ども達が高校生、大学生になっても地域で活動できるようにしていく。例えば、地域の防災訓練等で、寝たきり高齢者を連れ出すのは中学生でもできるので、日頃から、様々なところでの交流が必要。

領域Ⅱ 自立してともに成長する人づくり

2 子どもから大人まで、地域の中で自分の力をのばせるまち

	【現行】10年後に実現するまちの姿	変更すべき点・新たに加えるべき点	グループ討議の概要
35	○家庭と学校、地域が協力して、子どもの健康と体力が向上しています。	○健康づくりの意識付けは重要である。一層の推進が必要である。	◆子どもの健康、アレルギーが多い。食の安全性が重要 ◆体力面では、ボール投げなど測定の成績は良くない。経験を積めるような取り組みが幼少時より必要。 【追加】 △のびのびと遊べる場所を作る。幼少期のからだを使った遊びは体力を培うのみならず、社会的なルールを身につける、相手への思いやりを育むなどの重要な意味を持っている。家庭内での健康への意識づけも重要。小児科医との連携も検討する。
36	○だれもが学びながら能力を開発する場や、継続的にスポーツを楽しむ場など、区民が学習する機会とその成果を生かす場が、地域の中に広がっています。	○今後、高齢者が増え益々生涯教育への需要が増える。一層の推進が必要である。 △地域人材の活用という意味も含めて、生涯学習の場では重要である。	◆公園は狭い。 ◆子どもの声が騒音と言われてしまい、活動の場が制約されることがある。「子どもの声は騒音ではない」という共通認識を得られるようにしていくことが必要。 【追加】 △のびのびと遊べる場所を作る施策を行う。地域人材の活用という意味も含めて、生涯学習の場では重要である。
37	○区内に立地する大学などの高等教育機関の教育研究機能が地域で生かされ、区民の学習機会の拡大に大きく寄与しています。	○今後、一層の推進が必要である。	◆大学の公開講座等区民が参加できるプログラムがある 【追加】 △区内の教育機関の横の繋がりも図りながら、講座の内容を豊かにしていくようにする。 △小中学校向けの出前型特別授業を考えてもらい、区内の大学と区立学校との交流を促し、検討する際に、大学の研究が活かせる分野で協力、連携していける施策の工夫を行う
38	○中野らしいさまざまな文化・芸術活動が区内各地で活発に展開され、区民一人ひとりが身近に参加し、鑑賞できるようになっています。	○今後、一層の推進が必要である。	◆商店街でのギャラリーに作品等を展示、各商店を順々に回れば、区内各所で作品を鑑賞する機会になるのではないかと。 【追加】 △区内の芸術活動を「芸術祭」としてまとめる企画をする等の行政の支援も必要。 △区内の学校及び専門学校には芸術系のものも少なくないので、区内の芸術系イベントにも関わる工夫を行う。
新規項目			

領域Ⅲ 支えあい安心して暮らせるまち

1 人々が自分の健康や暮らしを守るために努力しているまち

	【現行】10年後に実現するまちの姿	変更すべき点・新たに加えるべき点	グループ討議の概要
39	○区民一人ひとりが、健康の大切さを自覚し、健康づくりの場や身近な医療を活用しながら、心身の健康や機能の維持、体力の向上に努めています。	★変更すべき点はないが、重要な視点であり、より一層の推進が必要。	◆今後の高齢化の進行を考えると、一人一人の健康維持、体力向上は重要である。 ◆予防医療という観点で、身近な医療機関との関係構築が不可欠である。 ◆特定健診等の受診率の向上を図っていく必要がある。 ◆スポーツジムが高齢者の交流の場になっているなど、健康維持の関心が高まっている。身近なスポーツ拠点は重要。 ◆体力づくり等への参加促進については、単なる情報提供ではなく、直接「誘う」ということがカギになる。 ◆健康づくりの拠点を、町会エリア程度に配置し、住民が自ら運営できたらいいと思う。 ◆身近にスポーツを行うことは必要だが、高齢者などではケガの心配もあり、専門に対応者が必要になる。
40	○高齢者が、体力づくりや食生活の改善など、自分にあった努力を行うことで、心身機能の低下の予防が進んでいます。		
41	○高齢者や障害者が、就労や地域活動を通じて社会に参加し、さまざまな交流や活動にかかわることで、いきいきと暮らしています。		
42	○障害者や介護を必要とする人が、多様なサービスの中から、自分にあったものを選択して利用し、地域で自立して生活しています。	★必要な情報が十分発信され、同時に選択・決定がサポートされることが、サービスを選択する前提となる。 →「障害者や介護を必要とする人に、必要なサービスの情報が十分に提供されるとともに、その選択がサポートされ、地域で支えあって生活しています。」	◆担い手の問題等を考えると、10年後にサービスの選択ができるかという疑問がある。 ◆介護給付額は、年10億円程度増加しており、今後の75歳以上人口の増加などを考えると財政的に厳しいものがある。 ◆高齢者は、どのようなサービスがあるか、わからない場合がある。また、加齢に伴い、選択し、決定することが困難になる傾向がある。 ◆福祉・医療の専門職を増やし、「選択」をフォローすることが必要でないか。 ◆医師も、単に診察を行うだけではなく、積極的に情報を発信し、適切なサービス利用を促進する必要がある。 ◆様々な場所で、いろいろな情報を発信できたら良いと思う。例えば、店舗で生活関連サービスの情報提供を行うなど。 ◆他者との交流により、利用できるサービスの情報や医療機関の受診の助言等を得る機会が増加するのではないか。

領域Ⅲ 支えあい安心して暮らせるまち

2 地域活動を中心に、ともに支えあうまち

	【現行】10年後に実現するまちの姿	変更すべき点・新たに加えるべき点	グループ討議の概要
43	○高齢者や障害者を含め、多くの人々が、ときには担い手として、ときには受け手として、相互に地域での支えあいの活動を実践しています。	★支えあい活動の推進については、今後とも実施していく課題である。	◆地域での支えあい活動については、町会・自治会の活動も進み始めており、条例の制定による「見守り名簿」の提供、すこやか福祉センター等による支援体制等も構築されている。 ◆孤立を防ぐためには、地域での居場所づくり、そこへの誘い方の工夫など、より密着度の高い対応が必要となる。 ◆独居高齢者の増加に対して、すこやか福祉センターに、介護・医療・健康などを総合的に相談できるため、「カルテ」システムのようなものをつくり、心配があれば気軽に相談できる態勢をつくったらどうか。
44	○就労形態などが多様化して、人々の働き方や暮らし方が変化し、勤労層が地域で過ごす時間も増えています。	★退職者だけではなく、勤労層が地域の中でその能力や経験を生かすことが重要であること、「就労形態」は、区として左右することが困難な課題であること、余暇の増大は地域への参加の前提であることを考えると、No.44と45を一つの表現としたらどうか。	◆勤労層や退職者・子育てを終えた人が、それぞれの経験や能力を生かす場は、非常に大切であり、地域にも有益だと思う。 ◆就労形態の多様化は、ややもするとマイナス面を感じてしまう。就労については、多様な形態で、それぞれのニーズを満たすことも重要だが、やはり安定が一番ではないか。 ◆就労形態については、区で左右できる課題なのか。 ◆勤労層が、余暇にスポーツ・趣味活動を積極的にできるとよい。そのためには、身近にそのような場があることが望ましい。
45	○仕事や子育てを終えた人々は、豊富な経験と能力を生かしながら、多様な地域活動や自治の場に参加しています。	→「勤労層や仕事や子育てを終えた人々が、豊富な経験と能力を生かしながら、多様な地域活動や自治の場に参加しています。」	
46	○青少年が地域活動の一翼を担っており、支えあいの活動に多数の若者が参加しています。	★若者の参加については、より広い範囲の表現としたらどうか。 →「若者が、支えあい活動や様々な地域活動に参加するとともに、その趣味や特技を生かして、まちの活性化に活躍しています。」	◆青少年をサポートできるまちであってほしい。また、若い人が夢を持っているまちになってほしい。 ◆若い人と高齢者等が交流でき、それにより相互にサポートができることが望ましい。 ◆青少年の活動として、ジュニアリーダ等の活動もあるが、参加が少数である。より広い地域参加が大切。 ◆支えあい活動だけではなく、趣味や特技を生かした参加なども考慮すべきではないか。 ◆若者がイベントを企画・実施して、全国に発信している例もある。サンプラザなどの「中野の顔」となる場を、もっと活用したらどうか。 ◆若い人の定住を、まず考えるべき。その意味では、家賃の助成、シェアハウス、空き住戸の利用などの工夫も一考に値する。
	○新規	★地域の関係機関やNPO、各団体、自主グループなどの活動と地域単位で、協働し、目標設定、実施、経過を含めた成果の評価を、区民主体で勤めていく時代であることを踏まえ、そのようなことをシステムとして支援する行政の役割を明記したらどうか。	

領域Ⅲ 支えあい安心して暮らせるまち

3 安心した暮らしが保障されるまち

	【現行】10年後に実現するまちの姿	変更すべき点・新たに加えるべき点	グループ討議の概要
47	○支援が必要な人が、安定した日常生活のための相談援助と、適切なサービスの組み合わせによって、計画的に自立や機能維持を図ることができるよう、行政や関係機関、地域団体、ボランティア連携した総合的な体制が地域に確保されています。	★今後、個別窓口対応ではなく、ワンストップな相談窓口・対応が、より重要になっていくことを踏まえ、表現の明確化を行う。 →「支援が必要な人が、気軽に相談でき、支援が必要な場合は、専門機関、地域団体、ボランティアと連携して総合的に（あるいは「ワンストップ」対応）できる体制が地域に確保されています。」	◆支援が必要な人が、1か所に行けば、すべてOKという場所が身近に必要なになっていく。そのため、明確に「ワンストップ」という表現を追加したらどうか。 ◆すこやか福祉センターでワンストップの相談等を行っているが、人事異動が激しいことが課題であると思う。 ◆相談や対応のレベル向上のためには、社会福祉士等の専門職の活用がカギになる。
48	○感染症やさまざまな健康への脅威から、区民の健康を守る取り組みが進められています。	★感染症等の健康への脅威については、今後も継続して行うべき課題である。	◆感染症については、昨今の「デング熱」、「エボラ出血熱」などもあり、継続して留意してほしい。 ◆健康への脅威という点では、危険ドラッグ等も問題ではないか。
49	○保健福祉・医療などのサービスがさまざまな担い手によって提供される市場が構築され、区はサービスの質の確保、利用者保護などの役割を担い、利用者が自身にあったサービスを主体的に選べる環境が整っています。	★今後の高齢化の進展等を踏まえ、サービスの担い手の確保が重要であるとともに、単なるサービス増加ではなく、一定の質を確保していくことを同時に行っていく必要がある。 →「区が、増加する保健福祉・医療サービスの需要の担い手の育成、質の確保、利用者保護などの役割を担い、関係機関・団体との連携・協力により、必要なサービスを主体的に選択できる環境が整っています。」	◆一定のサービス供給は行われているが、「質」という点に問題がある。 ◆劣悪なサービスに係る報道等もあり、質の確保への行政の関与は重要だと思う。 ◆自分の家やサービス付き住宅などで、暮らし続けられる環境整備が大切。 ◆高齢化社会のなか、質の確保とともに、担い手の確保ということも考えていく必要がある。
50	○個人や地域の力を超えた、行政としての支えが必要な場面では、区が支援を用意して、暮らしを支えています。	★表現の整理。 →「行政としての支えが必要な場合には、区が責任を持って暮らしを支える支援をしています。」	◆セーフティネットとしての行政の役割は必要だが、表現を一部変更したらどうか。

領域Ⅳ 区民が発想し、区民が選択する新しい自治

1 自治のしくみが効果的に機能し、さまざまな担い手によって多様なサービスが展開するまち

	【現行】10年後に実現するまちの姿	変更すべき点、新たに加えるべき点	グループ討議の概要（順不同）
51	○多くの区民によって、地域課題の解決のための話合いや共同行動などが積極的に進められ、暮らしやすいまちづくりの動きが広がっています。	（新たな表現案）○若者、勤労世代、女性による地域課題解決のための話合いや協働行動などの意識がとくに充実し、暮らしやすいまちづくりの輪が区民全体に積極的に広がっています。 ●補足説明・新しい「53」との違いは、「51」がまちづくりのネットワークづくり自体を指摘、「53」はネットワークによって形成される地域のイメージを記載しています。	①若者、勤労者、女性等の参加が重要。現状は参加や暮らしやすいまちづくりが意識された段階にすぎない。 ②現行文の「51」と「53」の違いが不明確。 ◆「検討中の課題」 「若者、勤労者、女性」のところに、「高齢者」や「身障者」なども加えてはどうか。 「積極的に広がる」という言い方はおかしくないか。 「暮らしやすい街づくりの輪」の中の「輪」のイメージが湧きにくい。補足説明にある「ネットワーク」の方が分かり易い。
52	○町会・自治会は、地縁団体としての長い活動の経験をふまえて、大きな役割を担っています。	（新たな表現案）○町会・自治会は、地縁団体としての長い活動を踏まえつつ、区行政機関等との役割を分かち合い、適切な分担の下で、団体間の連携も含め開かれた社会貢献活動を担う機能へと進化しています。	①地域課題の解決に町会・自治会が果たす役割は大きい。 ②親睦会的体質から脱皮し社会貢献活動を担う組織に転換。 ③町会・自治会が役割を担うことは重要だが、何から何まで持ち込まれている実態があり、区行政機関等の役割との分かち合いが必要。 ④町会・自治会等の相互間の連携の充実が必要。 ◆「検討中の課題」 「社会貢献活動」の主語は「町会・自治会」と思われるが、町会や自治会が「社会貢献活動」を担うというより「住民自治の活動」を担うのではないか。
53	○区民による協働の動きが広まり、地域の団体活動が活発になって、NPOなどの新しい形の活動形態も広がっています。	（新たな表現案）○町会・自治会、NPO、大学、商店街、民間企業等が広域的に連携し、産学住遊のバランスある地域づくりが実現しています。	①産学住遊のバランスが取れた地域づくりが必要。 ②町会・自治会、大学、NPO等との広範な連携が必要。
54	○区民は、必要な情報を、情報通信技術をはじめとする多様な方法で、速やかに入手できるようになっています。	（新たな表現案）○情報通信技術の発展等により、区民が多様なチャネルを通じて必要な情報を必要な時に必要な形で速やかに入手できるようになっています。 ●補足説明・本情報は、区の行政情報はもちろんのこと町会・自治会や協働に関する広範な情報を対象とするため、行政機関の問題に限定せず地域の問題として従来同様の位置に記載しています。	①電子掲示板等を活用し、コンビニ、公共施設等でも多彩な情報が収集できる環境が必要。 ②現行文は、区行政機関側の問題ではないか。
55	○身近なところに人々が集う場、話合いの場があり、区民の意思にもとづいて運営され、多様な地域活動の拠点として生かされています。	（新たな表現案）○区民が集う場所、話合う場所が商店街、公共施設、公園等身近なコミュニティ空間に形成され、多様な地域活動の拠点として活かされています。 ●補足説明・「52」との違いは、「52」が地縁団体の活動に焦点を当てているのに対して、「55」は団体に限定しない地域コミュニティ問題として整理しています。	①廃校した学校施設、公園・散歩道、商店街の空き店舗活用等に努力する必要がある。 ②現行文は、「52」との区別が不明確。
56	○政策等の「計画－実施－評価－改善」の段階ごとに区民が参加するしくみが整い、区民に開かれた区政運営が進められています。	（新たな表現案）○政策等の「計画－実施－評価－改善」の段階ごとに区民が広く参加するしくみと機会を拡充させ、区民に開かれた偏りのない公平・公正な区政運営が進められています。 ●提案・本事項は領域「Ⅳ1」に無縁ではないものの、どちらかと言うと「区行政機関」の場を中心として展開される事項であるため「Ⅳ2」の項目に移行することを右の意見も踏まえ提案。	①特定の団体に偏らない公平公正な区政運営が必要。 ②現行文は、区行政機関側の問題ではないか。

領域Ⅳ 区民が発想し、区民が選択する新しい自治

1 自治のしくみが効果的に機能し、さまざまな担い手によって多様なサービスが展開するまち

	【現行】10年後に実現するまちの姿	変更すべき点、新たに加えるべき点	グループ討議の概要（順不同）
57	○地域で活動するさまざまな団体が、公共サービスの新たな担い手となり、区民にとって質の高いサービスを提供しています。	領域Ⅳ「2」に内容を見直して移行。	①民間活力の積極的活用は必要。 ②公共サービスの新たな担い手は不可欠なものの、公共サービスの質について行政機関側の問題として再度検討し領域Ⅳ②に移行しても良いのではないかと。
58	○地域では、災害時への対応や防犯のための備えなど、安全で、安心な暮らしを支えるための取り組みが、人々の力を生かしながら幅広く実践されています。	（新たな表現案）○区民の顔と顔が見える安全で安心なまちづくりが進み、災害時の備えと対応や防犯に強い地域が形成されています。	①顔と顔が見える街が必要。挨拶する街。 ②自然災害も含めこれからも重要課題。
59	○区の内外でのさまざまな交流を通じて、世界の国々や民族との相互理解の輪が広がり、平和な世界の実現に向けた努力が重ねられています。	（新たな表現案）○平和な世界に向けた交流の場として、国内外を問わず開かれた自助・共助のまちが形成されています。	①自助と共助が必要。大学との連携も必要。 ②現行文「平和な世界の実現に向けて」は必要か。 ◆「検討中の課題」 「国内外を問わず開かれた」とは、「国内外に向けて開かれた」ということか？ 「交流の場として」と「自助・共助のまち」の繋がりが分かりにくい。「自助・共助」は唐突に出て来た印象。入れる必要はないのではないかと。
新規項目			

2 区民目線の質の高い効率的な行政を実現するまち

	【現行】10年後に実現するまちの姿	変更すべき点、新たに加えるべき点	グループ討議の概要
60	○区は、区民の参加を保障する区政運営を行っています。	（新たな文章例）○区は、区民参加による区民目線を踏まえた区政運営、公共サービスの提供を行っています。	①区民総合サービス室等のしくみづくりは一案。
61	○区は、税財源の確保、歳出の抑制、民間活力の活用など財政構造の改革に努め、持続可能な、安定した区政運営により、区民にとって満足度の高い、効率的な行政を進めています。	（新たな文章例）○将来の区民の選択肢を奪うことなく、現在の区民のニーズを満たす持続性を確保した行財政運営が展開されています。	①満足度の高い行政、質の高い民間活用が重要。 ②職員規律、モチベーションの向上が重要。 ③行政の効率化は理解するが職員削減スピードが速く、区民として満足度の高いサービスを得ているかは疑問。
62	○区民の安心な暮らしを守るため、区は適切な危機管理のしくみを整えています。	（新たな文章例）○区民の協働による安全・安心な街を維持・充実させるため、区は行政としての適切な危機管理のしくみとそれによる機能を充実させています。	①町会・自治会との連携が必要。

領域Ⅳ 区民が発想し、区民が選択する新しい自治

2 区民目線の質の高い効率的な行政を実現するまち

	【現行】10年後に実現するまちの姿	変更すべき点、新たに加えるべき点	グループ討議の概要（順不同）
63	○民間が行う公共サービスの質、量を確保するため、区による評価・監視のしくみを整えています。	（新たな文章例）○行政としての公共サービスの質・量に対する評価・監視能力を十分に養い発揮し、区民に見えるモニタリング体制を確立することで、町会・自治会等との適切な役割の分かち合いと民間化による公共サービスの質を担保する体制が整備されています。 ●補足説明・・・領域Ⅳ1の「57」の見直し内容を盛り込んでいます。	①窓口の一本化、区民からの苦情受付・処理の一体化。 ②区民に見える評価の重要性。
64	○さまざまな手続や相談などについて、情報通信技術の利用によって区民の利便性が高まるとともに、区民と区との双方向による情報交換へと情報の伝達方法が変わっています。	（新たな文章例）○区政の一方通行の情報提供から脱却し、情報共有の充実から区民とともに考え、区民の悩み・相談に応える質の高い協働の仕組みが機能しています。	①電子掲示板等の活用。
65	○情報通信技術を活用して、区民が情報を得たり、安全に取引したりすることが可能になるなど、生活の質を高める環境が整備されています。同時に、電子化された個人情報の保護が図られています。	（新たな文章例）○マイナンバー制度導入や情報通信技術の利用に対応し、区民の個人情報保護を徹底すると同時に、行政として区民への公共サービスの充実を図り、区民生活の質を高める環境が整備されています。	①区の情報提供体制の一本化・一元化。
66	○区立施設が適正に再配置され、使いやすい施設により、必要なサービスが効率的に提供されています。	（新たな文章例）○区民と区民、コミュニティ間の繋ぎ手となり区民が使いたくなる公共施設の充実が実現し、学校区等を核とした施設利用による「ふるさとづくり」に取り組む体制がつくられています。	①新庁舎のシティホール化の視点。 ②「使いやすい施設」ではなく「使いたくなる施設」への脱皮。 ③小中学校等学校区を核としたふるさとづくりが重要。
新規項目			